

## 平成29年度“超”を目指す軸受技術研究会報告

“超”を目指す軸受技術研究会（会員提案，主査 平山朋子）：本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとなく参加してみたい者が集っているいろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度は，委員数37名，平均出席者数は25名程度で，同志社大学（京都）を開催場所とし，3回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第52回研究会（平成29年6月17日 於：同志社大学） ①最近の転がり軸受研究紹介（東京理科大学 野口昭治），②最新の研究状況ーバンプフォイル軸受を中心に（東海大学 落合成行），③真空用動圧流体軸受に関する研究ーしゅう動面の可視化観察ー（宇宙航空研究開発機構 松岡範子）．

第53回研究会（平成29年10月14日 於：同志社大学） ①情報機器ハードウェアのナノテクノロジーー分子流体潤滑理論との40年ー（鳥取大学 福井茂寿），②静圧気体軸受の開発事例（NTN（株） 藤川芳夫），③軸方向スロット絞りを有する静圧ジャーナル気体軸受（豊橋技術科学大学 伊勢智彦，長尾康平，松原真己，河村庄造，スターライト工業（株） 絹川智哉）．

第54回研究会（平成29年12月16日 於：同志社大学） ①エンジン軸受の摩擦測定（大阪電気通信大学 小笹俊博），②動圧スラスト軸受の負荷容量測定法（スピンドルデバイス研究所 菱田典明），③転がり軸受の寿命予測法に関する検討（宇宙航空研究開発機構 塩見裕），④立軸斜流ポンプの水中軸受（（株）西島製作所 野々垣稔），⑤ポンプ用メカニカルシールの技術課題（（株）西島製作所 徳永裕二，田中幸雄），⑥軸受Oリング支持構造の動特性（東京大学 庄山直芳，藤本浩司），⑦弾性流体潤滑膜の不安定現象（九州大学 八木和行），⑧あるヘルツ線接触のお話し（元京都大学・元大阪電気通信大学 矢部寛），⑨グリースの油膜形成とトラクション特性ー増ちょう剤の効果ー（同志社大学 八百谷昇，平山朋子，松岡敬，坂本英俊，小宮広志），⑩再生可能エネルギー利用への取組～温度差発電（（一社）持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会（JASFA） 遠藤聡），⑪舞鶴工業高等専門学校におけるトライボロジー実験の導入（舞鶴工業高等専門学校 植田祐未，野間正泰），⑫身近な物体まわりの流れの可視化と小学校での実践（舞鶴工業高等専門学校 岡本瞭太郎，植村多可志，植田祐未，野間正泰），⑬大偏心回転軸側から給気する気体軸受（給気圧力制御による軸振動低減）（豊橋技術科学大学 伊勢智彦，大崎光祥，松原真己，河村庄造），⑭EHD接触における膜厚と破断率の同時測定ーインピーダンス法の検証（日本精工（株） 前田成志，丸山泰右，横浜国立大学 中野健）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年3回の研究会の開催を予定している．

URL: <http://www.maizuru-ct.ac.jp/control/noma/trib/tribology.html>